

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3691500023		
法人名	医療法人 十全会		
事業所名	グループホームさざんかの宿		
所在地	徳島県板野郡板野町犬伏字鶴畑42番地		
自己評価作成日	平成25年6月26日	評価結果市町村受理日	平成25年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成26年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのスペースに応じたサービスを提供し、ストレスの少ないのびのびとした穏やかな生活のなかで認知症の行動障害を軽減できるよう支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同一法人の経営する医療機関の敷地内に位置している。利用者は、併設の多目的ホールで開催される行事に参加したり、通所事業所の利用者との交流を楽しんでいる。事業所は、中学生の体験学習の受け入れなども積極的に行っており、“地域の中で絆を深め信頼を築く”との理念の実践に努めている。管理者は、職員の意見を業務に反映させることで、働く意欲の向上に繋げ、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。また、意欲的に研修会や勉強会、委員会活動にも参加し、介護力の質の向上に努めている。併設医療機関との連携により、リハビリにも意欲的に取り組み、体調急変時や重度化にも対応可能な24時間医療体制を整備し、利用者や家族の安心に繋がっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員間で理念について話し合い、地域密着型サービスの目的を盛り込んでいる。運営上の方針や目標を具体化し、理念を共有して実践している。	事業所は、地域密着型サービスの意義と役割をふまえた理念を掲げ、管理者と職員は話しあいを重ね、共有を図っている。職員は、利用者の笑顔を引き出せるよう、信頼関係の構築に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の祭りの際には御輿の来訪もある。また、地元の中学生の体験学習を受け入れ交流に努めている。	事業所は、地域の自治会に加入し、清掃活動にも参加している。利用者は、事業所内に併設の多機能ホールで行われる行事に参加したり、隣接する通所事業所の利用者との交流も盛んに行われている。また、学生の体験学習の受け入れにも積極的で、双方向に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、地域の高齢者の暮らしに役立つことはないかを話し合っている。また、人材育成への貢献として、積極的に実習生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、報告や連絡、相談事項等について協議し、利用者の処遇や生活環境の改善に繋げられるよう取り組んでいる。	運営推進会議には、毎回、多数の家族や地域包括支援センター職員や市担当者等の出席がある。法人や事業所の具体的な取り組みや利用者の状況報告が行われている。事業所は、参加者から出された意見や質問について、対応の説明を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定の更新の機会等に、町担当者へ利用者の暮らしぶりや要望等を具体的に伝え、協力関係の構築に向けて取り組んでいる。	事業所は、定期的に町担当窓口を訪問し、利用状況や活動報告を行っている。事業所内の会議にも参加してもらい、保険者との連携を密に図り、サービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	町の指導に沿い身体抑制は全面行っていません。玄関にブザーを設置し、外出の要求があれば、散歩や家族様に連絡し面会・外出の機会を増やしてもらい、等の支援等を行っている。	職員は、研修や身体拘束抑制委員会に参加し、身体拘束の弊害について話しあっている。利用者の安全確保を第一に、本人本位に検討し、自由な暮らしを支援する工夫が行われている。拘束は一切行わないとの姿勢のもと、人権を尊重したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、勉強会やミーティング等を実施し、虐待とは暴力的な行為だけでなく、暴言や無視、心理的虐待、必要なケアの放棄等が含まれることを理解し周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、勉強会を開いて理解を深められるようにしている。また、社会福祉協議会が開催する、成年後見制度に関する研修会にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や解約時には、文書と口頭で十分な説明を行って、理解と納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に、公的な苦情相談窓口があることを紹介している。意見箱の設置を行い、より多くの相談や苦情を出してもらえるように配慮している。	毎回多くの家族の方に、運営推進会議に参加してもらっている。職員は、家族の来訪時や利用者との関わりのなかでも、意見や要望を引き出しやすい対応を心がけている。出された意見や要望を関係者間で話しあうことにより、さらなるサービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見を聞く機会を設け、意見を出しやすい工夫を行っている。日ごろから、コミュニケーションを図るように心がけている。	管理者は、ミーティングや日常会話のなかで、職員の意見を引き出しやすい雰囲気づくりを心がけている。現場の気づきや提案は、法人の会議へも報告し、運営面に反映させることで、職員の働く意欲の向上や質の確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の資格取得を支援している。職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況等を把握し、向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるように努めている。また、研修報告を全職員に行い、周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、他のグループホームや事業所との交流、交換研修等を通じて相互研鑽や学習に努めており、サービスの質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、本人の思いや不安を受け止め、安心してもらうことから始めている。利用者や家族の要望等に耳を傾け、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の立場に立って気持ちを受け止めたり話に耳を傾けたりして、関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の思い・状況を確認している。支援内容の提案や相談を繰り返す中で信頼関係を構築し、必要なサービスに繋がられるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いせず、利用者様の出来る範囲内で「洗濯物をたたむ・掃除・配食等」を手伝ってもらえるようにお願いしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄りそって、日ごろの暮らしの出来事や気づきの情報共有に努めている。本人をともに支えるため、家族と同一ような思いで支援していることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所での生活が、今までの生活の延長線上にあるように、地域の馴染みの知人や友人等が来訪してくれたり、電話を受けるなど、継続的な交流ができるよう働きかけている。	事業所は、利用者がこれまで培ってきた人間関係や社会関係の把握に努め、馴染みの関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。来訪者も多く、併設通所サービスを利用している知人や友人とも継続的に交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全職員が、利用者同士の関係を把握し共有できるように努めている。また、利用者同士の助け合いや、気持ちの支え合いができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性を損なうことがないように、今までの生活環境や支援内容、注意が必要な点等について情報提供を行い、きめ細やかな連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や表情等から真意を推し測ったり、さりげなく確認している。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から情報を得ようとしている。	職員は、利用者との日ごろの関わりのなかで、言動や表情に注目し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。事業所は、担当者制を取っているが、全職員で思いや意向の把握に取り組み、本人の視点に立った話し合いが繰り返されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、考え方に関する情報を、本人や家族、知人等から教えてもらい、全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の理解に努めている。十分に話を聞いてわかりやすく説明するなど、安心して過ごせるような支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族、関係者等と話し合っ、利用者様本意を中心に全職員の気づきや意見を取り入れて作成している。	事業所は、本人や家族にも担当者会議に参加してもらい、関係者全員の意見を集約した介護計画を作成している。また、毎月の評価チャート作成や3ヶ月ごとのケアプランの見直しはもちろん、状態や要望の変化に応じて臨機応変な見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化等は、利用者一人ひとりのケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録をもとに介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況・要望等に応じて、必要なサービスを臨機応変に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域包括支援センターの職員等と、地域や支援に関する情報を交換したり、協力関係を築いたりしている。御輿のボランティアや学校の職業体験学習等を受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師による継続的な医療を受けられるように支援している。また、状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療を受けられるよう支援している。	事業所は、利用者や家族の意向に応じたかかりつけ医の受診を支援している。併設の協力医療機関へリハビリに通う利用者も多い。また、協力医療機関とは、緊急時に24時間対応可能な体制を構築している。利用者の身体状況に変化があった際は、家族と職員が受診に立ち会い、情報や対応方針の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう早期発見に努めている。体調の変化等が見受けられた際には、直ちに看護職へ報告し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して医療を受診できるように家族等と相談している。医療機関の関係者に対し、情報の提供やケアについて話し合い、早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえたうえで、医師と職員が連携を図っている。安心して納得した終末期を迎えられるように、随時、意向を確認して取り組んでいる。	入居時に、本人や家族には重度化や終末期のあり方について、指針にそった説明を行っている。また随時、利用者や関係者間での話し合いのなかで意志確認を行い、対応方針の共有を図っている。毎日、併設医療機関の看護師による体調管理が行われ、状態に応じて24時間、対応できるよう連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	怪我や骨折、誤嚥、意識不明等の対処方法や緊急時の対応に関するマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している。年4回、避難訓練を行っている。また、消防署職員の立会いのもと指導を受け、防火や防災訓練等を行っている。また、緊急時通報システムを設置している。	事業所単独や併設施設の協力のもと、年4回の避難訓練を実施している。消防署との協力体制の構築もできている。防火訓練や備蓄品整備等、実践的な取り組みや法人全体での協力体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	グループホームさざんかの宿		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。また、自己決定しやすい言葉かけに努めている。	事業所は、その人らしさを尊重し、利用者の自尊心を傷つけることなく、自己決定の場を増やす取り組みを行っている。職員は、誇りやプライバシーの確保に関する研修会や委員会活動に参加し、その具体的な内容の理解を深め、実践に繋げている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、利用者とは過ごす時間を通して、本人の希望や関心、嗜好の把握に努めている。日ごろの生活の中で、本人が選びやすい場面づくりに配慮している。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに応じた対応を心がけている。毎日の体調や様子を見て、希望を聞いたり相談を行って過ごしていただいている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚れ等には、プライドに留意してさりげなく支援している。美容院は定期的に井上病院に訪問されてい。馴染みの美容院がある利用者様は美容院へ家族・職員が送迎し利用されている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や厚付けに関する話をしたり、配膳や食卓の清掃等お手伝いを無理強いせず、お願いしています。利用者様の状況に合わせて、きざみ食・ミキサー食を提供しています。	職員と利用者は同じテーブルを囲み、楽しみつつ食事ができる環境づくりに取り組んでいる。菜園で育てた果物の収穫やおやつ作りなど、利用者一人ひとりの関心や力量に応じて、作業を手伝ってもらっている。外食も、利用者の楽しみとなっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水予防の為、目盛りのあるコップを使用し、1日の飲水量をチェックしています。一日水分量1500mlが確保出来るように支援しています。栄養状態に問題がある場合は栄養補助を検討しています。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声かけや見守りを行い、困難な方には毎食後のケアを行うなど、利用者一人ひとりの力に応じた口腔ケアの実施に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は利用者全員、トイレでの排泄を支援している。利用者一人ひとりの状態に合わせて、紙パンツやおむつ類の使用を検討している。	職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄や自立に向けた支援に努め、可能な限りオムツ使用を無くすよう働きかけている。居室ごとにトイレが設置されており、介助の際にはプライドを損ねない支援を心がけ実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、十分な水分補給に努めたり、繊維質の多い食材の提供を心がけている。日中、トイレ誘導時には便座に座ってもらい便秘予防に務めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫したり、チームで支援するなど、利用者一人ひとりに応じた入浴の支援に努めている。	事業所は、一人ひとりの身体状況や習慣、希望に応じて入浴できる体制を整備している。利用者の意向を第一に、介助の際にも言葉かけや対応の工夫に努め、快適に入浴することができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。寝付けない時には、温かい飲み物やおやつを提供しておしゃべりするなどの配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	心身状態に変化があった際には、医師に情報を伝えている。また、必要に応じて処方内容の見直しが適切に行えるよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが、得意分野で力を発揮できるようにお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	初詣やみかん狩り等、利用者一人ひとりの習慣や楽しみごとに応じて戸外に出かけられるよう支援している。歩行が困難な方には、車や車椅子等を利用して戸外へ出かけられるよう支援している。	事業所は、利用者一人ひとりの希望に応じ、買い物等の個別の外出支援や全員での遠出も実施している。家族と外出される方も多く、歩行困難な方も車いすを使用して外気浴を行ったり、法人所有の庭園へ出かけたたりして、戸外で気持ちよく過ごせるよう、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホームさざんかの宿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が安心や満足を得られるよう支援している。家族と相談し、小額でも所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員は、精神保健福祉法の規定により、如何なる場合も通信及び面会に行動制限が出来ない旨を理解し、利用者の希望に応じて、日ごろから電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、居心地よく過ごせるように配慮している。また、自宅の延長として、自分の力でその人らしく過ごせる居心地のよい空間となるよう配慮している。	リビングダイニングは、明るくゆったりとしたスペースで、自然に利用者の集う場所となっている。季節感のある装飾や花が生けられ、利用者は談笑したり、テレビやカラオケを楽しんだり、家庭的な雰囲気気に留意した空間づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、ソファや椅子等を設置している。一人になったり、気の合う利用者同士が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談したうえで、居室に寝具やタンス、写真等を持ち込んでもらい、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	家族の写真を飾ったり、大切な家族の仏壇を持ち込まれている利用者もいる。事業所は、利用者の体調に応じ、本人が安全に落ち着いて暮らせるよう、配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力を見極め、目印や物の配置に配慮している。		